大永の名号板碑

【所 在 地】鹿児島市郡元2-4-27 一之宮神社

【種別】県指定有形文化財(考古資料)

【指定年月日】昭和34年6月10日





急号下部

一之宮神社境内にあり、地上高 90cm、幅 25cm、厚さ 15cm の板碑である。表面に「南無阿弥陀仏」の名号が刻まれているので「名号板碑」と呼ばれる。板碑とは一枚の石板に彫刻した塔婆を意味する。碑には通常、仏像、種子(梵字)、名号、題目、偈頌、願文などのほか、造立の年月日、造立者の氏名などが刻まれ、信仰の誠を示している。本県の場合、石材には安山岩、溶結凝灰岩が使われ、角柱形、碑伝形(山伏が入峯修行のとき建てる碑)のほか、磨岩形式のものもある。県内最古の板碑は肝属郡根占町の正応 6 (1293)年のもの(県指定文化財)である。

県内では種子を刻んだ板碑がほとんどで、「名号板碑」はこれだけである。名号の下部には「大永五天、道忠禅門」と刻まれていることから、大永5(1525)年に道忠という人が建てたものだと推測される。かつて、一之宮神社に隣接していた延命院という寺にゆかりのものだと思われる。

上部の摩滅がはなはだしいが,頭頂部は三角形で,頭頂部近くに二条の彫りと下方に浅い切り込みがあるので,碑伝形の板碑だと考えられる。願文などなく,造立の趣旨は不明であるが,名号を刻んでいる点,造立年代が比較的古い点などがこの板碑の特徴である。